

3月になりました。本日も、熊本労災病院のHPを訪れていただき感謝申し上げます。

本格的な春を控え、梅はもちろん、驚異的な暖冬の今年は桜さえもうすぐ咲こうという勢いようです。心躍る季節のはずですが、「コロナ」を聞かない日は、1日も、どころか1時間もありません。日本全体が、不安、不便、不快、のまっただ中にあるように感じます。私も、2月から4月にかけての出張予定が真っ白になりました。実際に、このウイルスのために亡くなられたかたもあり、予期せぬことで愛するかたを失われたご家族の無念を思うと言葉もありません。2ヶ月前は、まさに対岸の火事だったのですが、あつという間の広がりです。世界の近さ、を感じます。当初の、1例毎の患者さんの詳細な足取り確認は影を潜め、国を挙げての移動や集合の制約がつのり、具体的な対策がなかなか見えないこともあり、マスコミの論調も「みんなで気をつけてがんばろう」、になってきました。私たち、急性期を担当する医療機関は、体調の悪い方の訴えを聞き、その原因を突き止めて適切な治療を施し、元気で社会にお返しする、という明確な役割を持っています。その原則は不変なのですが、今回のような広範な感染の蔓延や災害の時には、診療の優先順位付け、すなわち「トリアージ」、が行われます。国は、2月17日の厚労省発出文書で、4日以上の有症者（高齢者や基礎疾患があるかたでは2日）はまず、24時間開設されている「帰国者・接触者相談センター」に電話相談したうえ、その指示にしたがって指定の病院に受診し、その結果ウイルスがいるかないかの検査（PCR検査）を受けて診断を確定し、その後の診療を続けてもらう、という目安を示しています。これは、電話相談で第一次のトリアージを行い、さらにその後実際に診療を受ける医療機関で、このウイルス感染かどうかのトリアージを行う、という流れです。もし、陽性なら、このウイルスは第二種感染症に指定されましたので、「第二種指定感染症医療機関」で診療をうけることとなります。この指定病床は、熊本県内で46床、全国で1,758床です。国も、その不足を危惧し、すでに、指定医療機関でないところでも確保してもらうように方針を出しています。当院はその指定医療機関ではないのですが、たまたま昨年末に結核患者収容用の陰圧個室（室内気が室外にそのまま出て行かない）を2床整備しており、必要に応じて使用可能です。

上記の様な、早期の診療を控える、という勧めは、PCR検査が簡便にできる体制にないことも大きいようです。インフルエンザでは、多くの方が経験して

いると思いますが、鼻から綿棒を入れて奥の粘液や組織を取り、15分程度で結果がわかるキットがあり、開業医を含めてどこでも簡単に検査をうけることができます。このウイルスでもそれができるとなると、「検査希望者があふれて本当に必要な検査が滞るから」、は理由にはなりません。しかし、受診を控える、の意味はそれだけではありません。受診の機会に、その医療機関で、他の受診者や医療者での相互の感染機会が増えるのではないかという危惧が、より大きい意味です。「ちょっとだるいし、熱は無いけど調べてもらおう」、と行ったら、そこで感染者と接触して、結果が陰性でも、5日後には発症していた、ということが起こりかねません。疑わしいかただけ別の場所でみて相互の接触を完全に避ける、などということができる医療機関はきわめて限られます。労災病院でも、呼吸器症状を訴えて来られる患者さんは、時間内も救急でも少なくありません。でも、その人たちを、全員このウイルス感染の疑いとして、すべてそうでないひとと動線を分けて診療するなどということは不可能ですし、現実的ではありません。現時点では、そのような呼吸器症状を示す患者さんでも、コロナウイルス感染でない確率が99.999%以上です。

ただ、入院患者さんたちは、健康ではありません。熊本県でもウイルス陽性者がでている段階で、面会者などおもわぬところから院内にウイルスが持ち込まれないとも限りません。職員もその媒体になり得るわけで、標準的な感染防御処置をとり、国の方針に添った行動制限や、出勤前の健康チェックを指示しています。面会者もなるべく制限し、また万が一院内発生があっても接触者をたどれる様に記録を残す様な体制を2月29日から始めました。皆様のご協力をいただければと思っています。

今後、患者がさらに増えれば、他の多くの病気と同様、病院にご連絡をいただき、そこで「電話トリアージ」を病院が行い、必要に応じて受診いただく様な体制に移行する可能性があります。そうなったら、当院からも行政からも御案内があります。その時々々の状況や国の方針に添って、この地域でベストと考える対応をしていきたいと思っています。

ただし、忘れてならないのは、病気は、このコロナウイルス感染肺炎だけではない、ということです。今日も、多くの科で通常の診療や手術が行われています。降ってわいた事態には適切に対処しつつ、熊本労災病院として維持すべき機能を冷静に、普段通りこなして行きたいと思っています。

最後になりましたが、新しい年度はすぐそこです。また新たな希望をこのご

挨拶でお届けできる様みんながんばります。